

令和四年度大阪大谷大学入学式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大阪大谷大学の教職員を代表して、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

ご列席いただくことはできませんでしたが、ご自宅や会場の外でこの入学式をご覧になっている保護者の皆様にも、心から御祝いを申し上げます。

大阪大谷大学は、本年令和四年度で、創立五十六周年を迎えました。一九六六年、大谷女子大学として発足した本学は、創立から五十年余の時を経て一学部二学科の単科大学から、四学部六学科一専攻科と大学院二研究科を有する総合大学へと発展してまいりました。

本学の特色は、建学の精神「報恩感謝」に基づく人間教育と、専門的知識を実践力に高めて「自立」「創造」「共生」という理念を実現する教育にあります。本日、第五十七回目の入学生となる皆さんを大阪大谷大学にお迎えするにあたり、まず、本学の根幹である建学の精神についてお話をしたいと思います。

「報恩感謝」の心は、自分が無数の「いのち」に支えられていることを自覚し、その恩をたずね、感謝の心を捧げつつ生きていこう、というものです。

人間の「いのち」は、無数の「いのち」によって支えられています。自分たちの「いのち」が自分以外のものに委ねられている、自分の存在は他の人の存在によって支えられていると感ずることができれば、自然に「感謝」の気持ち湧いてきます。そうした「感謝」の心は、人生を浄化し、そこから生まれてくる「報恩」の思いは、日々の務めに力を与えてくれます。

また、「報恩感謝」の心は、想像する力（イメージーション）を育みます。自分の「いのち」を支えてくれる人たちの苦労に思いを馳せ、感謝する心の営みは、自分では体験しようのないものに思いを巡らす行為です。それは、他者を自分の立場から見るとはならず、他者の立場から考え、理解しようとするものであり、思いやりの心

を育み、視野を大きく広げるものです。

本学は、このように互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる人間関係を築くことにより、輝かしい個性の集う理想の学園を作り、社会に貢献していくことを目指しています。

次に、本学の教育理念である「自立」「創造」「共生」についてお話をします。この三つの理念で表される能力や態度は、将来皆さんが社会に出て活躍していく上で極めて大切なものです。

「自立」とは、自主的な判断力や問題解決能力、自らを律する態度を、「創造」とは、学んだ知識や技術を生かして新しい知見を生み出す能力や社会で実践する能力を、「共生」とは、自分と他者、我が国と国際社会、人間と自然や環境との間で、お互いに理解し、尊重し、共存しようという態度を表しています。

皆さんがこれから生きていく時代は、これまで経験しなかったような問題が次々と現れてくると思われれます。ロシアのウクライナ侵攻、米ロ、米中などの国家間での対立の深まりは、間違いなく日本社会にも影響を及ぼすでしょう。

国内に目を向ければ、感染拡大から二年が経っても毎日新型コロナウイルスの感染状況が報道され、死者数や重症者数など、視聴者の不安と恐れを煽る情報が溢れています。この「不安と恐れ」は、新たに「嫌悪・偏見・差別」を生んでいます。社会風潮として「不寛容・無関心・自己責任」という冷ややかな言葉が世の中を覆うようになり、人と人との心理的距離はますます離れて行っているように見えます。加えて、貧困や格差の問題はより一層深刻さを増し、社会の分断は確実に進んでいます。ポストコロナの社会がどうなっているのか、まだ誰も見通すことはできません。しかし、間違いなく、これまで以上に難しい問題が次々と現れるだろうということだけは予測できます。

私たちは、こうしたあらかじめ答えが準備されていない課題にどう対処すべきかを自ら考え、また他者と協力してその解決を図らなければなりません。そうした未来を考えると、**「自立」「創造」「共生」という言葉で表される能力や態度は、皆さんの将来にとつ**

て、なくてはならないものと考えます。

では、そのような能力や態度を身につけるために、大学でどのような学びをしたら良いのでしょうか。

大学では、皆さんがまだ知らないさまざまな知識に出会うことになりまます。そこで、皆さんには、まず、それぞれの学部・学科で、専門的な知識・技能や能力をしっかりと身につけ、自分の強みを確立していただきたいと思えます。そして、自分とは異なる他者のものの見方、感じ方も学んで、自分の世界を広げてください。当たり前のように見えていた世界も、別の視点から捉え直すと全く違って見えてくるはずでです。これまで考えもしなかった「問い」や「ものの見方・考え方」に触れることが重要なのです。わかっていることよりも、わからないことをきちんと知ること、わからないけれどこれは大事ということを知ることが重要です。

社会の問題で、単一の視点からその構造が見通せるような問題は、ほとんどありません。複雑な諸要素が錯綜していて、すぐには解決への道筋が見えないような問題と取り組むには、じっと考え続けられるタフな知性が求められます。大学はその「考え続けられる知性」を身につける場なのです。そうして、皆さんは、高校時代までとは違う「新しい自分」を確立できるはずでです。大学での幅広い学修を通して教養を身につけ、一つの問題に対して複数の視点から見られるようになれば、より客観的な判断ができるようになります。こうした学びこそが、皆さんを真の「自立」「創造」へと導いてくれるはずでです。

また、大学では、学生同士、教職員、地域社会の人々など多くの人と揉まれ合う体験を積み重ねる機会があります。他の学生や教職員と積極的に対話し、クラブ活動やボランティア活動、インターンシップなどにも是非参加してください。文化的背景の異なる留学生や外国の人々と関わる機会も求めてみてください。こうしたことを通して、物事にはさまざまな面があることをわきまえ、一つの見方に凝り固まらない柔軟さを身につけ、考え方や価値観が異なる中で、相手を理解し、尊重し、共存しようとする「共生」の態度を自分の

中でしっかりと根付かせてほしいと思います。

大事なことは、いずれの場合でも、自分から行動を起こすことが重要だということです。ただ受け身で待っていても何も始まりません。知識も、自分で苦勞して調べて得た知識こそ、自分のものとなりますし、クラブ活動・ボランティア活動・インターンシップのいずれも、自分から行動しない限り、何も始まりません。皆さん自身が、興味をもった、面白そうだと思ったら、自分の身体を使って、自分の時間を使って、自分の感情を信じて、行動を起こした人だけに、個人的な贈り物が届けられる。「学び」とはそういうものです。くれぐれもスマートフォンの中でのやりとりだけで完結するような学生生活にはしないでください。

これから始まる大学生活は、皆さんの人生において決定的に重要な意味を持ちます。何を学び、何を体験し、どのように過ごしたかが、皆さんの将来を大きく左右します。

新型コロナの影響を受けて、いつとき実施が難しくなったこともありましたが、今では感染対策をして、工夫しながら、先輩たちはいろいろな活動を頑張っています。興味を持ったら、どうか臆することなく、チャレンジしてみてください。私たち教職員は、皆さんのそのような意欲に応え、親身に相談に乗り、時に導き、時に見守り、全力で皆さんをサポートしてまいります。

皆さん一人ひとりのこれからの本学での大学生活が豊かで、充実したものとなることを心から祈念して、式辞といたします。

令和四年四月二日

大阪大谷大学長 浅尾 広良